

音楽科学習指導案

指導者 広島市立〇〇中学校
教諭 〇〇 〇〇

1. 日時：平成25年12月〇日（〇）
2. 場所：〇〇中学校 音楽室
3. 学級：2年〇組
4. 題材：「アルトリコーダー2重奏を通して、表現力を養おう」
5. 教材：「ふるさと」
6. 題材の目標

2重奏の声部の役割を考えながら、ハーモニーの美しさを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて演奏する。

7. 題材について

（題材及び教材観）

本題材は、学習指導要領「第2学年及び第3学年」A表現・器楽（2）ウにある「声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて演奏すること」をねらいとしている。「ふるさと」は誰もが知っている日本の歌曲で、親しみやすく、美しいハーモニーを感じ取ることができる教材である。また、歌唱のフレージングや歌詞の当て方に対応して、レガート奏法やポルタート奏法を工夫させることができる楽曲である。

（生徒観）

本学級は、教師のアドバイスを肯定的にとらえ、お互いに協力しながら明るく前向きに取り組む雰囲気がある。合唱祭においては、自分たちで表現を工夫しながら取り組む場面も見られた。しかし、元気の良さが逆に雑な雰囲気に転じることもある。じっくりと丁寧に取り組むことが苦手な生徒も多く、リコーダーにおいては、楽譜も読めず、運指もほとんど理解できていない生徒も数名在籍している。

（指導観）

リコーダーの指導は歌唱の指導に比べ、読譜や運指の理解など、演奏に至るまでの地道な準備が多く必要である。また、練習もポイントをつかみながら、丁寧に取り組んでいかなければならない。苦手な生徒も多くいる中、できるだけ丁寧にポイントを説明したり見本を示したりすることで活動の見通しをもたせるとともに、活動の際には生徒同士の関わりを大切にしながら取り組ませることで、2重奏の楽しさを味わわせ、表現力を育てていきたい。

8. 評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
声部の役割（音楽の構造におけるそれぞれの声部が果たしている役目など）と全体の響きとのかかわりに関心を持ち、音楽表現を工夫しながら合わせて演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して音楽表現を工夫し、どのように合わせて演奏するかについて思いや意図をもっている。	声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけて演奏している。

9. 指導計画

時	☆ねらい ○学習（指導）内容・学習活動	【評価規準】 （評価方法）	共通事項
1	<p>☆調号の意味を理解し、新しい運指を覚えて演奏しよう</p> <p>○これまでの復習を行い、既に習った運指の確認をする。 ○「きらきら星」の読譜をグループで教え合いながら行い、調号の意味を理解する。 ○「きらきら星」を演奏する。</p>	【ア】 （観察） （読譜の点検）	音色 旋律
2	<p>☆アーティキュレーションの基本奏法を習得しよう</p> <p>○アーティキュレーションによる奏法の違いを確認しながら、基本練習をする。 ○調号の意味を確認し、「ふるさと」の読譜をグループで教え合いながら行う。 ○「ふるさと」の練習を始める。</p>	【ア】 （観察） （読譜の点検）	音色 旋律
3 本 時	<p>☆アーティキュレーションを考えながら演奏しよう</p> <p>○「ふるさと」の各声部を、奏法をチェックしながら、ていねいに練習する。 ○グループで確認し合いながら練習し、最後に合わせてみる。</p>	【イ】 （観察） （ワークシート）	音色 旋律 テクスチャ
4	<p>☆声部の役割と全体の響きとの関わりを理解し、表現を工夫しながら合わせて演奏しよう</p> <p>○主旋律と副次的な旋律の役割を理解し、アーティキュレーションを考えながら練習する ○グループ練習やペア練習を取り入れながら、曲を仕上げる。</p>	【イ】 （観察） （ワークシート）	音色 旋律 テクスチャ
5	<p>☆2重奏の実技テスト（2名ずつ）</p> <p>○声部を交代しながら、「ふるさと」を2回演奏する。 ○待機中は、「ふるさと」の写譜に取り組む。</p>	【イ】【ウ】 （実技テスト） （写譜）	音色 旋律 テクスチャ

10. 本時の目標

「アーティキュレーションを考えながら演奏できるようになる」

11. 本時の展開

学習活動 ☆ねらい	○指導上の留意点
<p>☆アーティキュレーションを考えながら演奏できるようになる</p>	
<p>1. 本時のねらいを確認する</p> <p>2. 基本練習と既習曲の演奏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姿勢や息の出し方の確認 ・運指の確認、ロングトーン ・スケール練習 (C d u r) ・既習曲「われは海の子」 「威風堂々」「きらきら星」 ・アーティキュレーションの基本練習 <p>3. 「ふるさと」の練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人練習 ・各声部の一斉指導 ・各声部のグループ練習 <p>・各声部を一斉に演奏する</p> <p>(時間があれば)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2重奏のグループ練習 ・最後に全体で合わせてみる。 <p>4. 本時を振り返る</p> <p>5. 次時の予告</p>	<p>○前時をふり返りながら確認する。</p> <p>○両足を床につけ、背筋を伸ばし、肩の力を抜く。 ○高音は音色もチェックする</p> <p>○運指をチェックしながら演奏する。</p> <p>○一つ一つ、見本を示しながら練習する。</p> <p>○机間指導をしながら「努力を要する」状況と判断した生徒への個人指導を行う。 ○特に3段目（レガート奏法）は1小節ずついいに指導する。 ○なぜここでレガート奏法を使うのか考えさせる。 ○3段目の練習メニューをアドバイスする。 〔練習メニュー〕 ①スラーの部分をチェックした後、1小節目の練習 ②同じようにして、2小節目の練習 ③1・2小節目を通す練習 ④スラーの部分をチェックした後、3小節目の練習 ⑤同じようにして、4小節目の練習 ⑥3・4小節目を通す練習 ⑦1～4小節目を通す練習 ○どうしても練習についていけない生徒には、個人指導を行う。 ○グループ内で声部を交代しながら練習させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価基準】</p> <p>A：グループ練習に積極的に参加し、練習を工夫しながらレガート奏法を習得する意図を持って練習している。</p> <p>B：レガート奏法までには及ばないが、運指を理解し曲を完成させる意図を持って練習している。</p> <p>〔Cと判断される生徒への手だて〕 となりに座って丁寧に個人指導をする</p> </div> <p>○本時の目標やグループでの活動について、自己評価させる。</p> <p>○次の時間は、2重奏に本格的に取り組み、曲を仕上げることを知らせる。</p>

〔振り返りシート〕 2年()組()番 名前()

今日の目標「アーティキュレーションを考えながら演奏できるようになろう」

☆今日の授業を振り返って、自己評価をしよう。

(A. B. C. のいずれかに○をして下さい)

- A. グループ練習に積極的に参加し、アーティキュレーションを考えながら演奏することができた。
- B. アーティキュレーションまで考えながら演奏することはできなかったが、指使いは理解して、曲を演奏することができた。
- C. まだ指使いまでマスターできず、曲をスムーズに演奏することができていない。

今日の授業を振り返ってひとこと